



地域医療のさらなる充実をめざして せんぼだより「うえーぶ」創刊によせて

4月より新しく生まれた「せんぼだよりうえーぶ」。せんぼ東京高輪病院と、地域医療機関を結ぶ架け橋として、これから多くの情報を発信していきます。今号巻頭では、戸田院長の創刊によせての言葉を掲載いたします。



せんぼ東京高輪病院 院長 戸田 剛太郎

Contents

・地域医療のさらなる充実をめざして

院長 戸田剛太郎

・診察科のご紹介 循環器センター

さまざまな症例に
きめ細やかな治療でのぞみます
副院長・循環器科 出川敏行

最良の医療を提供します
心臓血管外科 針谷明房

・NEWS & NEWS

地域医療連絡室がリニューアル
オープンしました!!

「循環器センター心臓血管外科
新体制の会」が開催されました

病診連携の充実をめざして

せんぼ東京高輪病院は昭和26年、東京船員保険病院として現在の地に開院し、以来50年近い歴史を刻んでまいりました。その間に、わが国の疾病構造は大きく変化し、医学、医療も目覚ましい進歩を遂げました。私どもの病院も、この変化と進歩に対応するべく、社会保険庁、船員保険会をはじめ関係各位の多大のご理解、ご尽力により平成5年6月より病院の全面的建て替え工事に着手し、平成11年3月、現在の形の新病院が完成いたしました。

開院以来、皆様のお役に立てるよう精一杯の努力をしてまいりましたが、このたび、皆様方と当病院の連携をより密にし、さらに充実させるために「せんぼだよりうえーぶ」を発刊することにいたしました。

少子・高齢化社会のなかの医療

少子化とともに高齢者社会の急速な到来、医療、医学の急速な進歩と展開により、わが国の医療は今、大きな変革を迫られています。わが国は平均寿命世界一を達成しましたが、これは国民が平等に高度の医療を享受できるという世界に冠たる医療制度のお陰であると思います。世界一の長寿国になるとともに、これに必然的に伴う高齢者人口の急激な増大を抱え、高齢者の方々

良質で安全な医療を享受することを可能にするにはどうしたらよいかが私達に課せられた大きな課題です。身体活動に制限のある方々の多い高齢者にとっては身近にあって健康上の問題についてきめ細かく相談に乗ってくれ、適切なアドバイスをしてくれる医師の存在は心強いものです。

これからの病院に求められるものは

衣食足りたわが国では現在生活習慣病が注目を集めていますが、その多くは慢性疾患であり、長期にわたるフォローが必要ですが、高度の診療機器による頻繁な診療は必ずしも必要ありません。しかし、国民は高度な医療設備の整った施設での診療を求める気持ちも強く、現在、大病院の外来患者の約8割は大病院に来られる必要のない方々であるといわれています。このような観点から今後は、病院と診療所との間で医療の機能分担を強力に進めていく必要があると考えています。この医療分担において、病院は高額で高度の診療機器を備えること、また、高度の専門的知識と技能を持つ医療集団を備えることが求められます。病診連携を実りあるものにするには、診療所へのいわゆる「逆紹介」も強力に押し進めていくことも必要と考えています。当病院では精神科、産科を除くすべての診療領域をカバーできる診療科を備え、また、MRI、CTをはじめとする高度の診断機器を設備しており、皆様のお役にたてるよう全力を尽くし診療にあたっています。現在、医学、医療は目覚ましい進歩と展開を遂げていますが、私達のモットーは全人的医療の実践と最高、最良の医療の提供です。これからも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本誌のタイトル「うえーぶ」は波(wave)を意味しており、本院の開設母体と関連の深い船員、海を意識したものです。波のように私達の気持ちが皆様に伝わっていくことを願って命名しました。



診療科のご紹介 循環器センター

さまざまな症例に きめ細やかな治療でのぞみます

循環器センターでは、内科と外科がしっかりと連携して診察にあたり、密度の濃い医療を行います。副院長で循環器科の出川先生に、治療方針と今後の医療連携のあり方についてうかがってみました。

副院長・循環器科 出川敏行



循環器科のドクターの面々：右から小松宏貴、天野英夫、出川敏行、山本雅人

循環器科は、心臓病・大血管の病気を対象としている科です。高血圧や脈の異常（不整脈）も循環器科で診察させていただきます

狭心症などの冠動脈狭窄が疑われる場合は...

負荷心電図（トレッドミル検査）あるいはタリウム心筋シンチ検査さらに冠動脈造影をします。その結果を見て薬物による治療、経皮的冠動脈インターベンション（PCI）、冠動脈バイパス手術のどれがよいのか判断します。当科では循環器センター内科と外科として同じ病棟（3東病棟）で患者様の治療にあたっていますので、内科と外科のコミュニケーションが取られており、先生方からご紹介のあった患者様にとって最良の治療は何か？ という命題をいつも念頭に置いて患者様の治療を行なうよう心がけています。

冠動脈造影検査は年に約400件、PCIは年に130件を数えており、1997年の循環器センター開設以来、大きな問題もなく安全に行っています。2003年秋から多検出器（16列）CTスキャンも他の病院よりいち早く導入され、診断に役立っています。狭心症を疑われても冠動脈造影検査など侵襲的検査に抵抗感を示される患者様に対しては有意義な検査だと思っておりますので、当循環器科にぜひご紹介ください。

東京都CCUネットワークへの参加

これまでの努力が実り、2004年春から東京都CCUネットワークに参加させていただいています。以来、心筋梗塞の搬入例も増加しており、急性期治療として冠動脈再灌流療法として

PCI、大動脈内バルーンパンピング、体外一時的ペースング、急性期透析療法を行う事も可能であります。

心不全の患者様に対しては...

いかに早く心不全から逃れることができるか、そのステージを軽減できるかが問題になってきます。そのために、ACE阻害薬、アンジオテンシン 受容体拮抗薬（ARB）の服用、さらにベータ遮断薬の導入も積極的に行っています。J-CHF、J-DHF、J-CARDという日本循環器学会主導の自主研究にも積極的に関わっています。

心臓弁膜症の疑いのある場合

心エコー検査（経胸壁あるいは経食道）でおおかたの診断をして、最終的には心臓カテーテル検査で手術の適応を決めます。内科的な治療は根本的な治療ではありませんので、重症な弁膜症では根本的な治療である弁膜の手術が必要になります。優秀な心臓外科チームは、僧帽弁、大動脈弁置換術のみならずそれらの弁形成術も可能でありますので、患者様の手術成績はもちろんのこと、長期予後まで勘案した治療法の選択が幅広く行えます。心エコー検査は年間2000例を数えています。

高血圧治療について

近年数多くのエビデンスが蓄積されてきており、高血圧の治療ストラテジーも変貌しています。高血圧は心筋梗塞、心不全への前段階と捉えられ、早期の治療介入が望まれます。もし、先生方の外来で合併症のない高血圧患者様がいらして、BNP測定した結果、その値が70pg/ml以上であったら、アンジオテンシン 受容体拮抗薬（ARB）の服用が勧められますし、潜在的な心不全の可能性を考慮し心エコー検査による心機能評価が必要になると考えております。その際には、心エコー検査を当循環器科で受けるようご紹介いただければ幸いです。BNP200pg/ml以上でしたら、心不全状態といつてよいですので、すぐに患者様をご紹介くださいますようお願い申し上げます。



心臓血管造影室

不整脈の診断

不整脈ではホルター心電図をとって診断し、治療が必要かどうかを判定します。治療は抗不整脈薬による治療、恒久的ペースメーカーによる治療（年間約20例）、カテーテルによる心筋焼灼治療があります。カテーテル治療は当院では行っていませんが、適応のある患者様を、経験豊かな大学病院へご紹介することも可能です。高齢者心房細動は、脳梗塞の潜在的リスクです。抗凝固薬に禁忌のない患者様においては、ワーファリンの服用が必須と考えられております。その際はワーファリンの導入をきめ細かく行うことも可能です。

血管の病気

血管の病気では、動脈の拡張（動脈瘤）、閉塞（閉塞性動脈硬化症）、静脈の中で血の固まり（血栓）ができる深部静脈血栓症、この血栓が流れて肺に詰まってしまう肺塞栓症なども循環器科で扱っています。

このように、我々循環器センターでは、患者第一をモットーに、患者様の予後を熟慮し治療を行っていますので、心当たりの患者様がいらっしゃいましたらどうか当病院循環器センターにご紹介いただければ幸いです。

最良の医療を提供します

年間100例の心臓血管の手術件数をめざす心臓血管外科は、循環器科とともに、循環器センターを支えています。新体制でスタートした外科チームの抱負をご紹介します。



心臓外科手術風景

心臓血管外科医長 はりや 針谷明房

信頼に応える姿勢で歩んできた循環器科

せんばだよりうえぶのご創刊、心よりお慶び申し上げます。創刊号で循環器センターの診療科紹介をさせていただいて、非常に感謝しております。

東京の玄関口、品川駅に程近い、要人が居を構える風情ある丘、東京の奥座敷とも言うべき高輪台の地に平成9年4月、せんば東京高輪病院 循環器センター・心臓血管外科は新設科として誕生しました。その後、循環器センターは出川副院長とともに患者様への実績を深め、信頼を育んできました。地域に根ざした医療を第一に考え、患者様それぞれに見合う最良な医療を提供するために、平成17年1月、新たなチームが加わりました。順天堂大学医学部を平成3年に卒業して、心臓血管外科医長として赴任した針谷明房と申します。よろしく願い申し上げます。



無菌手術室（BCR）

地域に密着した手作りの医療を旗印に

我々、心臓血管外科スタッフは出川副院長を中心とした循環器内科医、優秀な麻酔科医や臨床工学士、手術室看護師、循環器内科専門看護師の協力で大学病院の高度な医療にはない、地域に密着した手作りの医療を提供できると思っております。患者様一人一人が日常生活に戻り、社会復帰できるまで、病気のみならずその日常生活や家族などにも気を配れる臨床医を目ざしております。

日本の心臓血管外科医の第一人者である順天堂大学医学部心臓血管外科教授、天野 篤教授の治療方針を受け継ぎ、患者様にいかに早く元の生活に戻っていただくかを常に考え、迅速かつ冷静な診断と納得が得られるまでの十分な説明、医療情報公開、安全かつ質の高い医療を心がけております。天野教授の厳しいご指導と順天堂大学医学部心臓血管外科医局スタッフの応援の下で、患者様に安全かつ質の高い医療を提供できるように努力する所存でございます。

4月からは昭和大学医学部出身の塩尻泰宏先生が赴任され、2人体制で診療を行ないます。徐々に新体制を整備し、せんばだよりうえぶの大きい波のように定時手術を軌道に乗せ、緊急手術で新たな旋風を起こせるように努力する所存でございます。

今後ともいっそうのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

NEWS
&
NEWS

地域医療連絡室が リニューアルオープンしました!!

地域医療連絡室は、今まで医事課事務室内にありましたが、4月より正面玄関を入ってすぐ左側に独立した部屋を設置いたしました。これまで、紹介患者様につきましては初診の手続きや外来診察などでご不便をおかけしておりましたが、今後は、手続きの簡素化や外来診察、各種検査へのご案内など、地域医療連絡室でなければできない紹介患者様向けのサービスの向上に積極的に取り組んでまいります。連絡室へのご要望などございましたらなんなりとお申しつけください。また、当院へお越しいただいた折りは、お気軽にぜひお立ち寄りください。スタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。



NEWS
&
NEWS

「循環器センター心臓血管外科 新体制の会」が開催されました

本誌の創刊号特集は循環器センターを紹介していますが、去る3月15日、高輪プリンスホテルにて、「せんぽ東京高輪病院循環器センター心臓血管外科新体制の会」が開催されました。年度末でご多忙の折りにもかかわらず、当日は港区医師会の戸谷会長をはじめ関連する病院、医療機関から70人の先生方にお集まりいただきました。誠にありがとうございます。

当日は、戸田院長の挨拶にはじまり、戸谷会長のご挨拶の後、新たに当院顧問に就任された順天堂大学の天野篤教授、新メンバーとなる心臓血管外科の針谷、塩尻医師が出川副院長から紹介され、続いて循環器内科の医師が改めて紹介されました。引き続き行われた懇親会では、循環器センター心臓血管外科各スタッフがおいでいただいた各先生と歓談し、梶浦副院長の中締めまで和やかな雰囲気の中で盛会裡に終了することができました。心臓血管外科におきましては昨年5月から続いた医師の不足により、紹介医療機関の各先生方には長期間にわたりご不便、ご迷惑をおかけしており誠に申し訳ございませんでした。これにて当院循環器センターは万全の体制が整備されることとなり、出川副院長はじめスタッフ一同気持ちも新たに地域医療に取り組む熱意が、ご来臨いただいた先生方に十分お伝えできたのではないかと感じられた会でした。



スタッフの紹介
左から山本・針谷・
塩尻・小松・天野



参加した地域のドクターたちとの談笑風景も

新しい外来診療がスタートしました!

皮膚科 「レーザー外来」

4月28日から
毎週木曜日午後3時から(予約制)
対象 ほくろ、いぼ、老人性シミ
炭酸ガスレーザーによる治療です。

小児科 「小児神経外来・発達外来」

5月9日から
毎週月曜日午後2時から4時30分まで

いずれも詳細についてはお問い合わせください。